

<ふくしま外国語教育推進リーダー活用事業より>

「ふくしま外国語教育推進リーダー活用事業」は、外国語教育推進リーダーの優れた実践を域内に普及するとともに、推進リーダー配置校及び接続中学校における互見授業や協議会等の機会を通して、小中接続期における学びの過程を意識した授業の充実と、小中連携の一層の推進を目指すもので、令和6年度から3年間の事業となっています。

令和6年度は、下郷中学校区及び只見中学校区における授業研究会が実施されましたので、その様子を紹介します。

【下郷中学校区 授業者：室井 温子先生】旭田小授業公開（第6学年） 単元名：Save the animals.

導入では、ピクチャーディクショナリー(*1)を活用しながら学習した単語をタブレットに入力したり、チャンツ(*2)に合わせて表現したりしながら、単語に慣れ親しむ活動が行われました。タブレットに入力する際にはゲーム的な要素のアプリを使用しているため、集中して楽しく活動しているそうです。

また、本時は単元の導入として、ALTの出身国の生き物（絶滅危惧種）の説明を聞いたりポスターを見たりすることで、児童が単元末に紹介したいゴールのイメージを明確にもつことができていました。



【ALTのポスター紹介
～PHILIPPINE MOUSE DEER～
絶滅危惧種：フィリピンネズミシカ



【ピクチャーディクショナリーの単語を入力する活動】



【伝えたい生き物について考える児童の姿】

【研究協議会の様子】

- *1 ピクチャーディクショナリー…海外の子供が活用している絵本のような辞書。文字だけでなく単語のイラストがあるので記憶しやすい。教科書会社によって別冊として出版されているものもある。
- *2 チャンツ…リズムに合わせて英文や英単語を発音する学習法で、英語の表現を自然と身につけることができる。

【只見中学校区 授業者：古川 裕梨先生】只見小授業公開（第6学年）単元名：Save the animals.

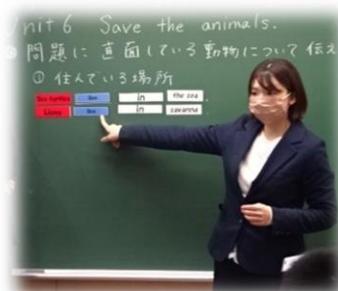
導入では、「今日の音」としてすでに学習した単語から、“sh”の綴りと音の関係を学ぶフォニックス（*3）の時間が設けられていました。イギリスのBBCの番組（Alphablocks）の教材を使用し、毎時間少しずつ学習を継続しているそうです。

また、単元で学習する単語や英文のチャンツのあとに、複数の例文を色分けで提示することで、日本語とは違う文構造（語順の違い等）に自然に気付けるようになっていました。

単元の導入として、ALTが紹介したい生き物（絶滅危惧種）の説明を聞いたり、単元末にできるようになることを共有することで、学習への意欲と見通しをもつことができていました。



【フォニックスの時間】



【文構造の視覚的な提示】



【ALTの生き物紹介～RED PANDA～】



【伝えたい内容を考える活動】



【研究協議会の様子】

*3 フォニックス…英語の文字と音を学び、英語の綴りと発音を結びつけて、正しく読むようになるための学習法。

体系的・継続的にフォニックスを学ぶことで、英単語の読み方を推測できるようになる等、読み指導の初期段階で効果的といわれている。日本では、3・4年生の外国語活動でアルファベットの文字の名称の読み方、5・6年生の外国語科で文字が持っている音を学習している。

二つの中学校区では、中学校卒業時まで育てたい資質・能力を明確にし、目的・場面・状況を明確にした言語活動や文字指導が行われていました。授業公開や研究協議会では管理職の先生方も参加され、外国語教育推進リーダーや小中学校、教育委員会指導主事の先生方と共に小中の円滑な接続へ向けて熱心な協議が行われました。

次年度は、域内の他の中学校区で外国語推進リーダー活用事業（授業研究会）が開催される予定です。

今後も各中学校区で外国語教育推進リーダーの授業を参観したり、児童の学びの様子を共有したりしながら、小学校での学びを中学校につないでいきましょう。

